



天使

発行

天使大学 広報委員会

〒065-0013

札幌市東区北13条東3丁目

TEL 011-741-1051(代)

FAX 011-741-1077

http://www.tenshi.ac.jp

教職員からのメッセージ

天使大学の教職員スタッフの、日頃感じていることや授業の紹介などのメッセージを特集しました。



リハビリテーション 看護学Ⅰで学ぶこと

看護学科

教授 沢 禮子

本授業の目標は、リハビリテーション医学およびリハビリテーション看護の概念とその役割について理解し、看護実践に寄与することにあります。1962年、私がボストンから帰国直後にリハビリテーション看護について研究・教育を開始した頃は、文献も少なく、医学や看護学のなかでもあまり知られていませんでした。

歴史の変遷をたどると、リハビリテーション医学の発達とともに、そのチームにおける看護の果たす役割の重要性が明確になり、その専門性が重視されるようになっていくことがわかります。リハビリテーションの概念は「人間らしく生きる権利の回復」すなわち「全人的復権」です。上田氏（日本社会事業大学客員教授）は「治らなくても家庭や職場に復

帰できるところまで“よく”すること」と述べています。リハビリテーションは発病と同時に始まります。すなわち病人の看護ケアはリハビリテーション看護で始まるのです。

学生の受講後の感想を原文のまま以下いくつかを紹介いたします。「障害を持っている方の部分をリハビリするのではなく、残存機能への働きかけや完全治癒ではなく、人間らしくその人が生活していけるように可能な限り援助することに気づかされ、看護の実践の場で視野を広く援助出来ると思う」「興味深く、今までのイメージが変化していくのがわかった」「リハビリテーション看護の理念は看護理念の本質なので、これを念頭において役立てたい」「主体的にクラスに参加することや文献を読んで課題別の7回のレポート提出は、きびしかったが、それによって講義の内容が理解できて、リハビリ看護に興味を持てた」。

ハードスケジュールの授業内容は、学生も教員もともに容易ではありませんでしたが、学生の主体性や熱心な学習態度がリハビリテーション看護にたいする意識の変化をもたらし、看護実践への意欲的な関わりを動機づけることとなりました。



外国語（英語）で 学んでほしいこと

教養教育科

教授 吉田 翠

今年のお正月、小柴昌俊氏、野依良治氏、江崎玲於奈氏のノーベル賞受賞者三人による新春座談会がありました。その中で小柴先生曰く「本来子どもは理科が好きですよ。学科になると嫌いになるのは試験と評価があるから。（実験などを通して）面白さを伝えること」。それを聞きながら「本来若者は英語に関心がありますよ。教科になると嫌いになるのは…」と置き換えている自分に苦笑したものです。皆さん、英語が好きですか？今回は英語の授業紹介ですが、最近の大学英語教育の新しい方向、天使大学の英語教育カリキュラム、そして私が担当している授業について一言述べましょう。

社会のリーダーのなかには、「これからは片手にコンピュータ、片手に英語を」と言い切る人もいます。確かに「国際交流」という言葉が特別な意味を持たないくらい盛んになり、インターネットの使用で、世界と瞬時に情報交換ができる時代です。手段としての英語力が求められるのは明らか。大学においては、国際交流・国際貢献を視野に入れて、学生の専門分野の英語力を身につけさせる専門英語（ESP）の研究と教育実践が増えてきました。専門誌が読める英語力と対人コミュニケーションができる英語力の養成。教員には、これらの教育に必要な研究と実践

への努力が、学生には自己の学習目標設定と達成するための努力が求められます。

天使大学の教育目標には「国際的視野を養う」「各々の専門的能力を基盤として、将来、各々の専門職の発展に貢献できる応用力と創造性を養う」と謳われています。英語教育がその一端を担えるよう、カリキュラムには読解力を育てるために英語Ⅰ・Ⅱが、対人コミュニケーション能力を高めるためにオーラルイングリッシュⅠ・Ⅱが開講されています。英語Ⅰ・Ⅱについては、1年次で高校までの学習を一般英語（EGP）教材で復習し、2年次でそれを発展させつつ入門的な専門英語（準ESP）教材で学びます。これらの学習が、3・4年次の専門課程において開講される文献講読、英文文献講読の基礎力となることを目指しています。

現在担当している科目は、英語Ⅰ・Ⅱ（看護学科）、オーラルイングリッシュⅠ（栄養学科）です。英語Ⅰ・Ⅱでは、読解にとって必要な文法を復習し、語彙学習には語彙表（Word List）も利用しています。特に英語Ⅱでは、専門の知識を生かして英文の読みを深めることができます。さらに編入生からの経験にもとづいた助言や発言は、内容理解をいっそう深める助けとなります。オーラルイングリッシュⅠでは、対人コミュニケーションに求められる基本表現を学びます。1クラス50名が受講しているうえ、音声に親しむ学習環境が不十分ですが、学生のバイタリティーと協力により授業を進めています。学生諸君には、それぞれ目標をもって英語を学んでほしい。その目標に英語の授業が少しでも役立つことを願っています。



健康生活看護学Ⅳ(成人看護学): 成人期とは?・授業点描

看護学科 助教授 前田 明子

成人期は年齢でみると青年期から老年期の少し前までをさします。成人期は基本的には自分で物事を考え、決め、実行できる時期にあります。20～30歳位で身体能力はピークになり、その後は徐々に低下していきます。にもかかわらず社会的な役割は増しますので、ストレスやこれまでの習慣等から健康を害するなどの変化が起こり始めます。ですが、成人期の人は経験や知恵をもちあわせるようになりますので、捨てたものじゃないですね。しかし、体力低下、ストレスや病気と共存していくためには、サポートを受けたり休息をとることが必要です。それができるといっても成人(おとな)といえます。そうは言っても自己管理をしていくことはとても難しいことです。



ユニバーサルファッション 時代の下着

教養教育科 助教授 松村 仁穂子

1980年代以降、若い人を中心とする衣生活の様相が著しく変わってきました。

着装の規範も失われ、はじめはジェネレーションギャップであろうと思っておりましたが、実はアパレル界の行き詰まりから脱却するための方策の一つということでした。言葉を代えて”ユニバーサルファッション”というと妙に新しく品質や着心地がぐっとよくなったものに感じられますが、年齢、体型、障害等にかかわらず、それぞれが美しく、機能的で生き生きと過せるようなファッションを作り出すことです。美しさに対する基準や範囲が広がることは大変良いことであると思います。

今年の研究テーマを衣生活と食生活のライフスタイルの相関としました。調査をしてみると対象集団の意識には、年齢層を同じにした結果、隔たりも相関も発見できませんでした。しかし、身体意識については、自分の体型に自信を持っている人が多く見られました。学生のプロポーションのほとんどが7頭身以上大体7.3頭身位です。バランスの取れた食生活による恵まれた体格に、それぞれの感性を遺憾なく発揮した「何でもありのファッション」を身に付け自分は楽しく、他人も心地よく、衣服によるコミュニケーションも容易でと、言うことなしの衣生活に思われますが、あえて問題点を指摘すれば、見えないところのおしゃれについてでありましょう。夏季はもとより冬季になっても下着・肌着の質は変化しな

このような成人期の人への看護を3年次に学びます。まず、成人期にある人の特徴等を自己学習や講義で学んだ後、主に健康障害のある方への看護へと学びを進めていきます。学習内容は「Ⅳ-1:慢性期にある人の看護」と「Ⅳ-2:急性期にある人の看護」のふたつに分かれています。

「Ⅳ-1」は生涯にわたり自己管理を必要とする慢性の病気(例えば、糖尿病や肝臓病)をもつ方への看護を学びます。また慢性の病気をもちながら生活している方や難病の方を看護している看護師さんから体験をお聞きする機会ももちます。学生は患者さんからは強さを学び、看護師さんからは多角的に判断しながら看護することの大切さを学びます。

「Ⅳ-2」は、主に手術を受けられる方の看護を学びます。手術によって身体がどのような影響を受けるのか、手術前から手術後の観察の仕方やケア、その後の生活をどのように調整していくかについて順を追って学びます。

平成15年度には成人看護学臨地実習が行われます。健康障害のある成人期の方への看護を体験的に学ぶことができるように学生をサポートしていきたいと思っています。

い人がいます。たまたま私と出会った人には、肌着や下着の着用をうるさく勧めますが、もっと自分の着方を科学的に理にかなったものにした方がよいと思われます。一つには被服気候からたっぷりとした静止空気を身の回りに置くことです。それは、暖かく過ごすための最善の方法であるからです。教室にあってもコートや脱がない学生がいて、注意をしたら「かぜを引いていますから」という返事、コートを着て実習することは、危険を伴うことでもあります。とにかく暖かく過ごすためには、含気性のある素材を選ぶ必要があります。今一つは被服衛生の観点から吸湿性・吸水性・透過性などのよい素材を身にまとうことです。その観点からするとやはり天然繊維の方が性能的には勝っていますが、木綿だけが肌着に最適ということでもありません。吸水性や吸湿性がよくても透過性や比重が悪いからです。一度吸い込んだ汗や水蒸気を分散させるのが遅いからで、その点の日本の加工技術は世界一です。夏涼しく、冬暖かい肌着や下着を適正着用して、機能的にもまた理想的のプロポーションに補正するためにも役立っているのは、はつらつと爽やかに、元気に健康で充実したときを大切に過ぎて欲しいものです。因みに最近の下着は、男女差の少ないシンプルなものやビタミンC付着シャツ、海藻エキスなどで脂肪分解促進効果のあるガードルなどまた一方でパンツスタイルの流行でTバックショーツが普及してきたなどの報告もあります。

88歳の母がピンクの服を着たいというからワインレッドに白い飛行機模様のパンツスーツに今年はやりのスモークパステルピンクのジャケットを重ねて、プレゼントしました。衣服は、一番身近な環境です。しっかりと下着補正をして、健康の面からまた地球温暖化の視点から無駄なエネルギーを消費せず、快適に快活に日々過したいものと考えています。



将来を期待する

事務局総務課 野原 正則

最近の社会は複雑・多様化を呈し、そこに生きる人々にとって、今ほど健康の大切さが求められているときはないと思います。

私は、5年前に22年間勤めた天使病院医事課勤務から本学勤務となり現在に至っておりますが、病院勤務時代に本学の学生に対する関心と本学に勤務してからの学生との関わりでは、一言で言うならば他人の子どもと自分の子どものような感覚の違いがあります。

例を出すならば、病院実習などしている場合、廊下を横に並んで歩いていたり、携帯電話の電源を切らずに見ながら歩いていたりしていたことなど、学生の悪い面ばかり目についていました。しかし今は、良い面を含め、全人的に見ることが出来ます。親心でしょうか。

学生を取り巻く環境もだんだん変わりつつある中、特に就職については大学を出ただけでは希望している就職先には簡単に就職できない時代です。学生時代に今できる勉強をしっかり学び、将来を真剣に考えていってほしいと思っています。特に高度な技術や専門的な知識だけではなく、人間性豊かな学生になっていただければと思います。

未来が希望と可能性に満ちたものであり、神様が一人ひとりに望まれる固有の道において、この理想をもって生きていくことができるように教職員一同心を合わせて祈っています。



子どもを通して 想像する力から看護実践へ

看護学科 講師 荻津 智子

健康生活看護学Ⅰ-Ⅱは、子どもの健康・看護に関する分野です。子どもの問題としては虐待やいじめ、教育のことが話題としてよく聞かれます。しかし、その子どもの生活はどのように変化し、子どもが健康な生活を送るとはどういうことか、大人との身体的・生理的、心理的な違いはということ、誰もが子どもだった時代をもつ故にか、わかったつもりになり、「今時の子どもは…」「身体的・生理的にも大人が小さくなっただけ…」と、わかったつもりで意外とわかっていないことが多いのではと思うこともあります。

現在は、学生も子どもと接することが生活の中から少なくなっています。そのような中で、学生が子どもの心身の成長・発達の道筋の不思議さや可能性の大きさを感じとり、子どもにまず興味・関心を持つことから始まればと考えています。

たとえば、子どもはどのように言葉や思考を発達させ、いろいろな状況をどのように感じ考えているのか、生理的には

なぜ大人より子どもは脱水になりやすいのかなど、これらのことはわかっているようで本当に知るとなると結構難しい、でも興味深いことなのです。ましてや子どもが病気をもち生活するということがどういうことかは、学生にとっては計り知れない世界です。しかし、興味・関心を持つことは、その対象となる者への想像の道を広げる、つまり思いをはせ相手のことをもっと知りたいということへつながります。そして、それらを子どもたちの心身の健康への援助を創造する手がかりとしてほしいと思います。この創造する力、思いをはせる力とは、看護を実践していく上で大切なことのひとつです。学生にとっては普段関わりが少なくイメージしにくい子どもの看護と一緒に学習することを通して、そのことも伝えることができればと考えています。

病気をもち子どもの世界を知る小学校3年生の詩をひとつ。

ぼくのゆめ

ぼくは
一度でいいから
走りたい
思いっきり走りたい
広いグラウンドで
広い草原で

お日さまの日にあたって
思いっきり
走ってみたい
学校のお友達と
みんなで走ってみたい

(すずらん会の編『電池が切れるまで』角川書店、2002より)



生化学を学ぶ意義

栄養学科 講師 金澤 康子

生化学 (biochemistry) はbio (生命、生物) のchemistry (化学) で、生物はどんな物質によって構成されているか、(この物質を生体物質という)、どんな化学反応によって機能しているか (この反応を代謝という) を解明する学問、言い換えると生命現象を化学的視点から化学的手法で解明する学問と言えます (厳密には化学の中でも特に物理化学の法則・理論が基礎になっています)。そのため、化学構造式やいろいろな公式や定数が出てきますし、とり上げる現象ももっぱら細胞の中での出来事になります。「生物は好きなんだけれど、化学は苦手です」「酵素反応といっても目に見えない現象なのでイメージできなくて」とよく学生の気持ちは、わが身を振り返ると大いに共感するところですが、生化学において、化学は生命現象を語る言語なのです。

ところで、「管理栄養士の卵」たちが生化学を学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。

「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざがあります。

慣用語辞典を引くと、「風が吹く」とほこりが舞う。ほこりが目に入って失明する人が増える。失明した人が三味線弾きになる。三味線の需要が増え、三味線の皮の原料の猫が乱獲され、ねずみが増える。増えたねずみは桶をかじるので桶屋が儲かる」とあり、思わぬ結果を招くことのたとえ、と出ています。「風が吹く」とことと「桶屋が儲かる」という思いがけない因果関係は、体内での代謝の異常と疾病の関係に似ています。代謝の異常 (風が吹く) が、めぐり廻って発症、あるいは症状の悪化 (桶屋の儲け) につながるのです。健康の回復のためには、一連の因果関係を明らかにし、適切な段階を効果的な手段でブロックしなければなりません。

平成14年度からスタートした新カリキュラムでは、生化学は形態機能学や病理学とともに専門基礎分野「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」に含まれています。管理栄養士として病気の治療・予防、健康増進を支援するためには、人間の正常な代謝について学び、さらにその異常がどのようにして疾病を招くかを理解する必要があるのです。

講義と実験あわせて4単位なので時間的に充分とはいえないかも知れませんが、知識の習得とともに「その時体内で何が起きているのか」を生化学的に考察するという姿勢を身につけ、将来いろいろな場面で役立てて欲しいと思います。



「社会人として必要な 潜在能力」

事務局教務課 鈴木 敏郎

本州と札幌市内の2つの短大を経て、昨年4月に本学へ転職しましたが、天使の学生は、高い基礎学力を備えた人物良好人が多く、こうした恵まれた環境の中で仕事ができることにとても感謝をしております。

学生の皆さんは、それぞれが目標とされる専門職業人をめざして、日々の学習に取り組んでいますが、より高いレベルの仕事を行うためには、専門知識や技能の習得だけではなく、社会人として必要な教養的な能力を高めていくことが不可欠です。それは、若い頃からの取り組みと、学習内容を生涯にわたりステップ&ワイズさせることによって、やがてはキャリアアップにもつながる大きな潜在能力となります。

そうした観点で、私の社会人としての経験から、能力開発の最初のステップとして学生時代に基礎を確立して欲しいと

考える5つの項目を挙げてみました。

1. 読書力 (習慣づけ)

読書は情報収集に役立つだけではなく、語彙の増加や文章構成の理解、さらには物事の原理原則 (法則や仕組みなど) を見極める力などを養います。読書が嫌いな方は、内容の平易な新書から始めてみてください (知的好奇心を持つことが最も有効な方法です)。

2. 論理的思考力

データや根拠に基づいて理詰めで物事を考えることや、事実と意見を区別して相手に伝えることが大切です。

3. 文章表現力

読んだ文章を要約しながら、基本的な文章を作成する練習を積み重ねましょう。それは基礎的な会話表現にも役立ちます。

4. 社会性

多数の社会人や学生と交流することで、多様な価値観やものの考え方を知ることができます。さらに課外活動などをとおして企画力や組織運営のノウハウなどを身につけましょう。

5. 健康管理

自己管理の習慣を学生のうちに築きましょう。体力の維持・向上も必須の条件です。



栄養士の卵たちとの日々

栄養学科 講師 小川 貴代

個人的なことです。私が天使大学に就職して早8年が経ちました。この間、短大から大学への改組転換、また今年度は栄養学科のカリキュラム変更と、大学として大きな変革の期間でもありました。

就職したての新米講師は幅広く深い食品の世界を科学的に伝えようと気負ってはいても、うっかりすると知らないことだらけ、冷や汗をたっぷり流しながら学生の前に立つことがしばしばでした。ただ、熱心に講義に耳を傾けてくれる姿や実習を楽しんで行ってくれる姿を支えに今日まで来たような気がしています。今でも、マスコミで流される食品、健康に関する情報などを学生のほうが早く入手しているような状況

もしばしばです。しかし、食に関するよもやま話は興味深く楽しいものですが、そこで終始してはいけない、専門職者として幅広い知識を統合して応用していくことが求められている管理栄養士の卵たちにとって科学的にものを考えることをせずには済まされないわけです。(一部の?)学生たちがちよっぴり苦手とする食品科学実験も、楽しんで行っている食品加工学実習も、食品の科学的原理を体得してもらうために

行っているものです。本当の豊かな食はどういうものか、その答えを見つけ、実践することに努力を必要とする時代において、管理栄養士を目指す学生たちは、幸せな苦勞を背負っていると思います。自分たちの職務の重要性に充実感を得る一方、その果てしない深さに身震いする時がくるのではないのでしょうか。それは私がこの天使大学で感じさせていただいていることでもあります。この道を目指した学生たちに、何があってもくじけず、よく学び、よく学ぶ4年間を送ってほしいとエールを送ります。



学生のうちに…!

栄養学科 講師 佐藤 裕保

まずは自己紹介から。大学を卒業後、食品メーカーに技術職で就職、その後大学病院の栄養士、フリーター(パソコンデータ処理・栄養指導・専門学校非常勤講師・引越し手伝いなど)を経て大学教員になった。病院勤務経験を生かして臨床栄養学を担当している。小生の豊富な社会経験(?)から、管理栄養士の卵たちに一言。

栄養士法が改正され管理栄養士の定義が明確になり、お陰で幸か不幸か大学のカリキュラムでは臨床栄養学の比重が重くなってしまった。より実践的な養成教育ということでは当然であろうが、基礎がしっかりしていなければ、応用教育は成り立たないことを忘れないで頂きたい。小生と同様に食品系の単位数が減ったことに対する不安をお持ちの方も、少なからずおられるであろう。栄養士の本業のひとつと思われている献立づくりは、慣れてくれば素人でもできるもので、単に料理研究家という肩書きで健康献立を論じている輩は珍しくないし、実際世の主婦(主夫)たちは連日の献立を上手に作っているではないか。管理栄養士というライセンスをもって世に出るからには、食の専門家としての知識が要求される。例をあげれば、「食品成分表は栄養士のバイブルだ!」なんていう言葉を聞くことがあるが、あれは単なる道具である。

食品成分表さえ手元にあれば(最近ではパソコンの栄養計算ソフトが主体であるが)、献立や食事調査の栄養計算ができると考えてはいないだろうか。たとえば「牛肉」なんて全部で84種もあるではないか。献立表や食事調査票に「牛肉」なんて記入があったら、いったいどれを当てはめればいいのか?そもそも、食品成分表はどのようにして作られているのかご存じだろうか。

また、先日新聞では「20代前半のアレルギー予備軍9割:世界でも突出」とのショッキングな見出しが目をつけた。つまり日本人は、なんらかのアレルギーを持っているのが当たり前という世の中になりつつある。加工食品・調理済み食品の利用が日常茶飯事の昨今、アレルギー物質を含む食品の表示義務は規定されているが、対象となるのは特定原材料の卵・乳・小麦・そば・落花生の5種で、他に19種が表示を推奨するとなっている。でも「違反がなければ特定原材料の5種についての情報は確実に入手できる…」と思ったら大間違い。包装されていないもの、一定大きさ以下のものは対象から除外されている。加工食品にはどのような原材料が使われ、またどのような製造工程を経て作られるのか、といった知識を持っているか否かの差は、人の命を左右する可能性も否定できない。

豊富な食品学の知識がなければ、正しい食品選択はできないことはご理解いただけたであろうか。食品メーカーや研究職としての就職でない限り、就職してからは食品学系の知識はなかなか得づらい。栄養士として就職を希望している学生には、在学中にぜひ食品学系の知識を増やしておいてもらいたい。

学生課近況

学生課長 内山 昌子

学生との会話

「私たちも胸を張って、天使大学の卒業生です、と言いたいですよ」。の「ですよ」を、声を張り上げて言う学生たち。「ならばどうする。言ったからには行動に移してもらおうじゃないの」とばかりに、問題点を並べてみる。「たとえば、これこれしかじか、できるよね」「やり方次第で素晴らしいかも」「やってみる?」「ほんとに…。」気を取り直して「頑張ろう」と固い握手をして、学生たちは帰って行った。葦の会(学生会)の役員や委員として、1年生ながら良く駆け回り回っていた彼らたち。こちらの支援次第では「学生中心の大学」に、一歩近づけるのでは…、と期待が膨らむ。

2003年度は完成年次。本来なら学生生活に関しては、基礎が

できていてもいい筈。床に座り込んでいる学生を見ると、即座に「この大学ではゆるさない」。歩きながら食べているのに出会うと、「ここは原宿ではない」。学生が集まっているとついチャンスとばかりにしゃしゃり出て、一言と言いが十言も喋り、最近では学生のほうが諦めている様子。その証拠に、「終わるかなと思うと、また話したすんだから。でも話したい気持ちはピンピン伝わるよ」。ゴメンナサイ。

なんでも相談

入学時に「とにかく困ったら相談して」「決して一人で悩まないで」「ガンと同じで、小さいうちに何とかしましょう」と呼びかけている。おかげで種々雑多な相談を受けている。なかには嫁姑問題もあり、本学が社会人入試や編入学試験等を実施していることを再確認させられる。これからは、全学あげての上手な連携がますます必要となるのを見越し、学生委員会のメンバーを中心に具体的な実施に向け模索中。この原稿書きの最後に「いろいろな先生が私のために時間を作って相談にのってくれたから、私は今ここにいます」と学生が話しにきた。

体育祭

野望が 打ち砕かれた瞬間

看護学科3年 小松 志帆



まず、実行委員でもない私が、体育祭について書くことになった理由は、私がパン食い競争で人間技とは思えぬ速さで1位であったから…。ではなく、先生曰く、「綱引きの時燃えに燃えていた」からである。それもそのはず、我がクラスの綱引きにかける思いは、灼熱の太陽を如く熱いものだから。なぜ、それ程までに熱いのかというと、1・2年と連続優勝しているの、3連覇を果たしたいという思いが強いからである。この思いは、温和な我がクラスにとって、唯一の野望であった。

そんな熱い思いを胸に私たちは、順調に決勝まで駒を進めた。決勝1試合目は、楽勝であり、優勝は目前であると確信

し、にんまりした。しかし、2試合目は、どんなに皆と力を合わせても、綱が引かれていった。優勝できないかもしれないという思いが頭を過ぎった。3試合目、今まで以上に集中し、選手22名と声援を送ってくれている人たちが1つとなって、綱を引いた。「ピーッ!」と試合終了の合図とともに皆、軽い放心状態…。そう、私たちの野望は無残にも打ち砕かれたのであった。悔しくて怒りをあらわにするクラス代表、悔しすぎて『太陽に〜♪』とくずを熱唱する副代表、陽気に手拍りする私たち。そして、敗因について真剣に討論する私たち…面白すぎである…。そんな私たちが下した結論は、腕力と若さという根本的なところが敗因だろうという、何ともアセスメント能力の低い結論であった。「来年はリベンジする!」と来年あるかもわからない綱引きの優勝を決意し、体育祭は幕を閉じた。

表彰式、お菓子を見つめた私が哀れに見えたのか、隣にいた2年生がお菓子をくれた。皆、たった一粒ではあったが、疲れた心身に染み渡り、元気になった。

コアラのマーチ、応援してくれた皆様本当にありがとう。今回野望は打ち砕かれたが、全力を出し切ることができた体育祭は、今では清々しい思い出となった。

クリスマスの集いの おかげ

看護学科1年 田中 まどか



4月に入学して、あっという間に12月になっていました。あっという間と感じるのも、充実した時間を過ごせた証拠なのでしょう。第一希望としていた天使大学に入学し、私の大学生活が始まりました。友だちづくりや様々な行事を体験し、やっと大学生になってきたかなというところ。天使大学は他の大学に比べ、行事が盛りだくさんのようです。私も、小学校、中学校や高校を思い出しても、ここまでは多くないと思います。正直なところ、私にはその行事が煩わしいものでした。なぜ大学に入っても、皆と協力して歌を歌ったり、スポーツをしたりしないといけないのだろうと感じていました。大学はもっと「自由」なものだと思っていました。

12月に入り、学校はクリスマスカラーに彩られ、「ここは大学なのか?」と思うほど幻想的でした。玄関を入ると、常に電飾がついているクリスマスツリー。ところどころにクリスマスリース。あと、いちばん驚いたのが羊の像。あまりに可愛すぎたので友達と記念写真を撮りました。クリスマスの集いのローソク係を決める時に、私たちのクラスはやりたいた人はいませんでした。結局くじで私になってしまいました。スーツを着ないといけなし、朝も早く行かないといけなし、正直「ツイテナイナ」と思いました。

でも、終わってみるとスーツを着たことも、朝早く行ったことも大した苦痛ではありませんでした。どうやら私は「自由な大学生活」を勘違いしていたようです。私の想像していた大学生活は、「自由」ではなく、何もないことだったのだと思います。もし、私が想像していた通りの大学生になったら、私は文頭に「あっという間」とは言えなかったと思います。そう思えたのは、クリスマスの集いでローソク係になって、違った角度で見ることができたからだだと思います。今は、たくさんの行事を通して友人ができることに感謝です。私の楽しい学生生活が始まりました。

自分自身と 向き合った クリスマスの集い

栄養学科2年 水野 沙弥佳



今回、クリスマスの集いで聖書をステージの上で朗読しました。1年生の時都合がつかず参加することができなかったの、クリスマスの集いがどのような雰囲気で行われるのかわからなく、なぜ大学なのにわざわざ時間をとってまでこのような集いをするのかも疑問でした。さらに大勢の人たちの前で慣れない聖書を朗読する不安もあり、前もって朗読する聖書の部分を渡されましたが、聖書に書かれている意味など考えずに、ただ目を通していました。しかし、実際にあのいつもとは違う空間にいて、教会から来てくださった神父様のお話を聞いたり、大勢の人たちが私の朗読に耳を傾けてくれているのがわかり、緊張しましたが良い経験となりました。

この出来事で、改めて自分自身と向き合うことができ、また自分が周囲の人たちに支えられて生活していることも実感しました。キリスト教の信者ではない私は毎日の生活の中でこのようなことを深く考えることはありません。私たちが目標とする管理栄養士や看護師は知識だけではなく、人と人との関わりを大切にする職業です。そのためには、自分を見つめなおし、相手のことを理解し、思いやる気持ちがなくてはならないと思います。普段の生活の中で常にそのようなことを考えるのは容易なことではないので、年に一度行われるクリスマスの集いに参加することはキリスト教の精神に触れることができる良い機会だと思いました。そして自分にとって有利か不利かを考えて行動するのではなく、たくさんの人と触れ合う中で相手の気持ちを感じとれるようになりたいと思いました。

最後に、大学で専門的な知識だけを得るだけではなく、このような天使大学ならではの行事により、自然と自分の生き方を考えることができることは素晴らしいことだと思いました。



これぞ大学生活!!

栄養学科2年 伊豆 唯

大学1年の春、中学・高校とあまり遊ぶことをしなかった私は「大学に入ったら、たくさん遊んでやる!!」と決意していた。まず、どうしたら「大学生っぽい遊びができるのだろうか?」と考え、とりあえず、サークルに入ろうと思った。中学・高校と部活をしていなかった私は、全く「コレッ!」といったものがなかったが、運動不足解消(兼ダイエット)のため、体育系のサークルに入ることを決めた。それで、高校の球技大会で燃えた、バレーボールのサークルに入ることにした。バレーボールの本格的なルールさえ知らず、サーブも運でしか入れることができなかった私が、「バレーボールバカ」と言われるほどのめり込めたのは、楽しい先輩と切磋琢磨しあえる同い年の仲間たちのおかげだと思う。

そして半年が過ぎ、大学生になって初めてのテストの時期がきた。初めてのテストだったため、割りと気合はあった。テストの2週間くらい前から勉強しだすという張り切りっぷりである。(今じゃとても考えられない…。今となっては、1週間弱前から悪あがきをするという始末である…) 結果、無事進級。

そして、大学2年の夏、念願の20歳!!=酒解禁!! サークルの飲み会にも堂々で行ける!!「これぞ大学生!! ビバ大学生!!」という感じではじけ(すぎ)た。飲み会后、友達の家に泊めてもらったり、私が想像していた「大学生」になれ、キャンパスライフを満喫していた。そんな夢のような大学生生活も束の間、「門限指定」「飲み会禁止令」「門限短縮」など、色々な制約ができ、物足りなさを感じている今日この頃。

そんな物足りなさも感じつつ、短大の友だちがどんどん社会人になっていき、就職のこともだんだん身近に感じられ、多少ではあるが焦りを感じながら、3年の進級をかけたテスト期間。「もっと遊びたい」とは思うが、天使大学に入ったからにはやはり管理栄養士になりたい!! そのためにはまず、目先のテストを片付け、それから、国家試験、就職のことなど本格的に考えなければ…。1年はやっぱりアツという間だ。



学生生活を見つめて～ 臨地実習

看護学科2年 山森 千弘

「入院生活で一番重要なのは、やっぱり看護師さんだと思う。体が弱ると、心も弱るし、イライラもする。だからこそ、そういう患者さんの気持ちに気づいてくれたり、いろいろなことを話しやすい看護師さんがいると安心するし、癒される。山森さんは患者さんの気持ちがわかる、優しい看護師さんになります。絶対!」。

これは、私が実習で初めて受け持たせていただいた患者さんが実習最終日にくださった手紙に書いてくれた言葉です。患者さんからのこの言葉が私には本当に嬉しくて、看護を目指すきっかけとなった原点の気持ちを改めて思い起こして感じることができ、また新たな目標を見出すことができました。

まだ「看護とは?」という段階にいた私は、実習初日に患者さんと何を話して良いのかわからず、ベッドサイドに行くことすら私にはとても勇気のいることでした。しかし、ある出来事がきっかけになり、患者さんの辛いことや困っていることなど

を会話の中で自然な形で聞けるようになってから、私自身も患者さんにいつも笑顔でいてもらいたい、患者さんにより良い生活を送ってもらいたいという感情が自然と心の底から湧き上がってきました。そして患者さんからの「ありがとう」と「笑顔」は何よりも嬉しい、励みになるものだと感じました。患者さんを思う気持ちから起こる行為が、今の私にとって精一杯の看護だと気づくことができ、自分なりの答えを今回の実習で見出すことができました。

実習を通して患者さんやその他の人々から学んだことは、これからの看護師への道の中で本当に貴重な出会いと体験ばかりでした。残り2年間の学生生活の中でこの学びを活かし深められるよう、そして今回感じることができた「看護の楽しさ」をいつも感じられるよう、学生生活を充実したものにしていきたいと思っています。



学 事 暦

9月9日	後期授業開始
10月12日	編入学試験
11月8日	体育祭
16日	推薦入学試験、社会人入学試験
22日	戴帽式
12月8日	創立記念日
19日	クリスマスの集い、学生総会
24日～	冬期休暇

1月18日～19日	大学入試センター試験
28日～	後期定期試験
2月6・7・14日	一般入学試験
3月13日	修了にあたっての感謝のミサ
3月14日	専攻科修了証書授与式

学外サークル活動

柔道との出会い

看護学科3年 藤田 有希



きっかけは、あの有名な柔道漫画「YAWARA!」でした。読む度に私は、女の子が男性を投げ飛ばすという事に興奮し、手に汗を握ったものでした。そして自分もその感覚を知りたくて、柔道を始めようと決意しました。しかし、憧れてはいたものの、せっかく大学生になったのだからと、アルバイトやサークルに精をだし、そんな決意は忘れていました。だが時間が経つにつれ、何かが物足りなく感じ、自分はこれで大学生活を終えていいのかという疑問を抱くようになり、1年生の10月に北大の柔道部に行くことにしました。

実際に柔道をやってみると、見ているのとでは全く違い、考えが甘かったことを思い知らされました。月曜から土曜までの毎日の練習、日曜日には試合や遠征、もちろん高校の部活とは違い、テスト休みはありません。特に長期休暇中の合宿は非常につらく、朝5時半起床で6時からの朝練、その2時間後午前

練があり、またその3時間後に6時まで午後練をするのです。1日に柔道以外のことは寝食のみです。

時にはさぼることもありましたが、以上のようなことを続け、柔道を始めて1年で黒帯を取ることができました。これで、『柔道をやめてやる!』と思っていたものの、いつの間にか、自分の限界を見、自分の力を出し尽くすことに心をとらわれてしまっていたのです。また、やればできるのだと自分に自信をもつことができました。そして厳しい練習を共に乗り越え、優勝を味わった仲間はつながりが深いものだと知ることができました。そんなわけで、やめることなく今は二段取得に向けて日々精進しています。



水泳のアルバイト コーチとして

栄養学科3年 牧野 愛美



私は3歳の時に水泳を習い始め、小学校5年生で選手コースに上がり、高校卒業と同時に選手として泳ぐことを辞めました。今は趣味として週1回程度泳いでいます。

「おはようございまーす。じゃあ、キックいくよ。手、後ろにして。ヨーイハイ!」そんな掛け声と同時に、毎週日曜日、水泳のアルバイトコーチとしての私の1時間が始まります。担当は、水慣れの初歩段階で、年齢でいうと3～5歳位、親離れが完璧にできていない子、トイレに一人で行けない子などがいる組です。一人でコースを受け持つようになって1年が過ぎましたが、私がモットーとしていることは、子どもの心を大切にすること、自信と勇気を持たせてあげることです。私は練習中、無理強いをせず、せかさずゆっくり教えていくようにしています。そして、上手にできたら少しオーバーに褒め、次への自信につなげていくようにしています。

私が今までに学んだことは、「キレル」と「叱る」ことの違

いです。注意する時に、自分がキレて怒っているだけでは、相手に心が通じなく、言うことを聞いてくれない感じがしました。生活のなかで私が“怒る”時というと、「プチギレ」や「逆ギレ」という人や物にキレることです。それまで人を叱る生活をしたことがなかったので、人を叱ることと、自分がキレるのは、意味が違うということを初めて学びました。

また、一番の楽しみは、泣く子が笑った、口数が少ない子がたくさん話してくれるようになった、できない子ができるようになったという過程を見ることです。人とのコミュニケーションは難しいものですが、これらは自分の気持ち（心）が通じた証のように思います。

このアルバイトでは、普段の生活以上に、対人関係の難しさ、自分の知識を伝えることの難しさなどを感じます。これらの経験を大切にし、相手の心を思いやりながら人と接することができるようになっていきたいです。



COLUMN 歌をうたいます

キリスト教では歌は祈りに通じると言われています。そのせいか本学は歌をうたう機会が随分と多い学校です。それもカラオケではなく、ピアノやオルガンの伴奏で、皆でうたいます。イースターやクリスマスといった、チャペルアワー、戴帽式、そしてクラス対抗の合唱コンクール。

ところで、「愛を一輪」という歌をご存じですか? 本学では定番の曲です。実はこの曲、W先生が「NHKラジオ歌謡」という番組からみつめてきた曲です。W先生は今退職されていますが、短大時代の経営母体であった「マリアの宣教者フランシスコ修道会」のシスターです。「仕事をしながら、ラジオを聞いていましたら、とっても素敵な曲が流れてきました。ぜひ皆さんでうたいたいと思います」。少し後にNHKの「みんなのうた」で取り上げられましたが、その時はまだあまり知られてなくて、楽譜を探すのが大変だったそうです。

ミサやチャペルアワーなどの祈りの時も、賛美歌と一緒にこの曲をうたいます。「♪愛される方法は、いつだって愛すること」この歌詞は、建学の精神に通じ、私たちが大切にしていきたいものの一つです。

(S.Y.)



宗務部、宗務委員会発足

宗務委員会委員長 沢 禮子

人類の救いと世界に平和をもたらすために、神の子キリストは2003年前に人間となってこの世に生まれました(クリスマス)。30歳から3年間にわたり人間の幸せのために歩むべき道を示し、また生き方を教え、最後に弟子たちに聖体祭儀(ミサ聖祭)とを福音等によって自分の教えを全世界に伝えるように命じられました。

本学はカトリック大学としてキリスト教精神に基づく豊かな人間性をもつ看護・栄養の専門家の教育を目指しています。2002年3月26日の教授会で、学校法人天使学園寄附行為第3条ならびに天使大学学則第1条に謳われる「カトリック精神」を具現するため、特設委員会として宗務委員会規定が制定されました。業務内容は以下の事項を審議し、必要な業務を行います。

(1) カトリック精神に基づく宗教的行事の企画運営(ミサ典礼関係と修養会の宗教的内容に関する事)、(2) カトリック精神に基づく宗教的環境整備の企画運営(チャペルを含む学内の宗教的環境整備)、以上に関わって、2002年4月1日から宗務委員会が発足しました。

早速、2002年8月1日に、全教職員を対象とした研修会(テーマ「いのちを見つめる教育—教育理念の実践に向けて—」)を開催し、建学の精神を共通理解するための第一歩を踏み出しました。宗教行事では、12月2日から始まった待降節の意味を紹介し、学内でキリスト降誕の準備をして、降誕祭のミサによって、クリスマスをおさわしく迎え、全学こぞって楽しく祝いました。本学内に建学の精神が理解され、教育に浸透するとき、本学を巣立つ卒業生は豊かな人間性をもつ専門職業人として、国際社会に立派に貢献することでしょう。毎日出会う人々に微笑みをもって接し、慰めと平和を分かち合えるとき、カトリック精神による教育が示されます。これからも全教職員の協力を仰ぎながら、委員会活動の目標達成に向けて努めていきたいと思っています。(看護学科 教授)

専門職として100%の就職をめざして

就職委員会委員長 黒川 正博

いよいよ来春は、天使大学の第1期生が巣立ちます。就職委員会は、4年間学んだ看護・栄養の専門知識が活かされる職場に100%の就職を目指し、平成15年度の活動計画を立てました。

今年度特に強化する活動は、①求人対策として、施設・企業訪問。同窓会、後援会へ情報提供等の協力依頼。研修施設の開拓。②学生への就職活動支援対策として、就職ガイダンスの充実。就職相談。就職セミナーの開催。企業セミナー参加よびかけ。③就職支援体制づくりとして、求人・求職データ整理。就職相談室の活用等です。その他に、アンケート調査、就職ガイドブックの作成、相談室ニュースの発行、教養試験模擬テスト等、きめ細かな就職サポートを計画しております。

なかでも就職相談室に常時人を配置し、就職相談も、全教職員の協力により、いつでも学生の要望に応じられる体制づくりをしております。また就職ガイダンスは、就職活動に必要な内容を重点に、年10回(前年6回)開催を予定しています。

就職支援活動にとって重要なことは、全道各地域にわたる就職情報を得ることです。そのためには、今までもご支援ご協力をいただいております本学の同窓会、後援会に、求人情報提供等に関するご協力をお願いし、ネットワークを構築できたらと考えております。

一方、求人開拓のための施設・企業訪問では、本学は人間教育に力を入れていることや、充実した学習内容を伝え、求人依頼を行います。

就職状況は、厳しいといわれておりますが、学生の望む就職ができるよう全学をあげて就職支援活動を強化しますが、学生自身も現実を見すえた進路の選択、またそれに伴う就職活動を積極的に行うなど、悔いの残らない卒業の春を迎えて欲しいものです。(栄養学科 講師)

2002年度在籍者数(2003年3月1日現在)

	学科名/学年	人数
大 学	看護学科	1年
		2年
		3年
	栄養学科	1年
		2年
		3年
短期大学	専攻科	19
	短大	2

12100 天使大学報は古紙100%再生紙を使用しています。

編集後記

学報第5号をお届けします。今回は、「教職員からのメッセージ」と題し特集しました。

天使女子短期大学から天使大学となって3年が過ぎようとし、この4月には初めて1年生から4年生までが揃うことになります。過ぎた3年間をふりかえり、また新たな1年に向けて課題をみつければ、願いをこめながら、教職員スタッフはさまざまな構想を練っています。

今後も引き続き、学生生活のさらなる充実と発展をめざす取り組みを紹介していきたいと担当は考えております。学報への皆さまからのご意見、ご要望をお寄せください。

(広報委員会 山部・青木)